

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600129		
法人名	社会福祉法人富門華会		
事業所名	安平町認知症高齢者グループホーム「さかえ」		
所在地	勇払郡安平町早栄町133-65		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成26年2月14日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者の人権と尊厳を守り、個々の生活リズムを尊重しながら『ゆっくり、のんびり、楽しく』生活するなかで認知症状が緩和されるようなサービスを提供し、温もりと安らぎのある人生をサポートします」という基本理念の下、職員それぞれが個性を発揮して明るく元気に、そして専門職としての意識をしっかりと持って介護しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=tue&JigyosyoCd=0193600129-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0193600129-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 12 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、安平町に開設して11年が経過しています。開設当初から法人が町から業務委託を受け、平成19年度からは指定管理者として引き続き運営しています。このため法人としての独自の運営管理は困難ですが、職員の向上心は高く、外部研修には積極的に参加をして学びを深めています。ホーム内は全体が広くゆったりとした造作になっており、退去した利用者の作品である豆草履を暖簾にして下げている居間は、穏やかな雰囲気が漂っています。職員は、利用者や家族に「自分史回想ノート」にこれまでの歩みを記入していただくと共に日々の関わりの中で得た情報を記入して積み重ね、利用者の人生における情報の共有化を図っています。ホームは、町主催の「地域ネットワーク」の一員として、行政、地域の方々と連携を構築し、ホームへの理解と支援に繋がっています。職員は利用者を自身の親に置き換えて、安心して暮らし続けられる支援に努めている「安平町認知症高齢者グループホーム さかえ」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自治会の一員（自治会費納入）として、地域行事への参加や、施設行事への地域住民の参加の促しを行い、地域の一員であるということを認識している	平成14年の開設以来の理念を継続し、現在に至っています。地域密着型サービスの意義を含んだ文言はありませんが、地域との繋がりを大切にしています。	内部研修において、現理念がサービス提供場面で実践されているかを検討している段階にあり、その後改めて理念の見直しを目指していますので、その実行に期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一部の入居者さんは花壇づくりや畑作業を通して地域の人たちとの交流を持っている	地域の方々が花の苗や種イモを持参して畑にいる利用者と話を交わし、職員はお茶を提供しています。介護相談で訪れる方もおり、ホームへの理解に繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町主催の地域ネットワーク会議に参加し、認知症の理解を図っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に実施。話された意見や要望をサービスの向上につなげるように努めることと、平行してグループホームの役割を理解してもらえるように努めている。	会議は退去した利用者の方の家族の方を含む柔軟なメンバー構成の下、定期的に開催し、活動報告後にメンバーの方々とホームの質の確保に繋がる情報や意見交換を行っています。避難訓練後に実施した救急法の講習にメンバーの方々の参加があります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の指定管理施設であり問題はない	平成19年度に安平町から指定管理を受け運営している関係上、役場とは連携が構築されています。管理者は、入居状況や事故報告等を直接役場に出向き説明をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなケースが身体拘束にあたるのかを個々のケースごとに検証している。玄関の施錠は夜間のみ	外部研修に参加した職員から研修内容の報告があります。管理者は理念を振り返る研修会で、身体拘束や虐待の具体例や弊害について説明をしています。	身体拘束や虐待の防止について正しい理解が得られるようマニュアルを整備し、職員が常に閲覧出来る仕組みや、折に触れての勉強会で、不適切なケアをしない意識統一を図る取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個々のケースを検討しながらグレーゾーン（特に心理的虐待）の検証を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解には努めているが、家族などへの働きかけや支援は行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時のみならず、必要な場合には随時行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を作ってはいるが、家族からなどの意見や要望を聞き出すことはあまり出来ていない	ホーム便りを毎月発行して、ホームの活動と個別に各利用者の様子を報告し、さらに行事案内と出欠の有無、意見欄を設けた葉書を同封しています。要望に応え、職員の名前入り写真の掲示を準備しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は職員会議などを通して意見の交換を行っているが、運営者（施設長）とは直接話す機会が少なく、管理者が意見や要望を伝えている	管理者は日常業務や会議で、課題や行事、献立、就業環境について職員と意見を交わしていますが、意識統一に繋がる施設長との意見交換の場が少ない状況にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の整備に努めているが、職員の希望に充分には応えてはいない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施と、外部研修への積極的な参加をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協会のブロック理事であるので、他施設との交流の機会が多い		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行う本人調査票の様式を作成し、それによって本人把握に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込みの段階からケアマネなどを通して全般的な相談業務を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネとの連携を密にして対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活の場であるという認識は出来ているが、一部にはまだ「介護してやっている」という言動が見られる事がある		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんの立場に偏り、家族に事情を二の次にする傾向が見られる		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前のアセスメントにより、馴染みの人や場所を把握し、途切れることのない様に配慮している	回想法として「自分史回想ノート」に蓄積した情報を基に馴染みの人や場所を把握しています。知人の訪問を受け入れ、さらに通院や理美容室等は家族と協働で支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	狭い空間の中であるので、人間関係が複雑にならないように配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退去した方の郵便物の取り扱いなど、退去後も関係性を維持している方もいる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成者を中心としながら、困難なケースの場合には職員間で検討している	利用者が思いや意向を表すことは少ない状態ですが、日々の関わりや生活歴、家族からの情報を参考に職員間で検討しながら汲み取りに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前アセスメントを行い、生活歴などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌の書式や記入方法を工夫し、総合的に判断できるようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を記入しやすい場所(日誌の中)にし、介護計画と現状のずれを対比しやすいようにしている	介護計画は管理者と計画作成担当で立案し、6ヵ月毎に見直しをしています。利用者と家族の生活に向けての意向の収集が少なく、反映は十分ではありません。	介護計画は、利用者や家族の要望を把握し、職員の気づきや意見が反映され、さらに日々の記録に計画の実施が確認できる取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェックポイントを随時確認しながら記録に記入して、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しての柔軟性は持っているが、事業所の多機能化には取り組んでいない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用している実績はない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての入居者さんがそれまでのかかりつけ医を継続している	町内のかかりつけ医への受診や訪問診療の支援を行っています。町外への受診は、ホームから情報を提供し、家族が支援しています。情報は、関係者の共有としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算は取れていない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域内に入院可能な医療機関はなく、入院した場合の情報交換は充分とはいえない		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算が取れていないのが現状であり、ターミナルケアの実施は困難と認識している	町内の医療機関には入院設備が無く、診療終了後は医師不在のため、ホームでの重度化や終末期の対応は困難である旨を利用者や家族に口頭で説明しています。	重度化や終末期における対応について、ホームとして出来ること出来ないことを明確にした指針や同意書の作成が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の講習をホーム内で実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町と連携して災害時避難訓練を実施	土砂災害を想定とした実践的避難訓練を町役場と連携して行い、バスで町民センターに避難していません。夜間想定時は、救急隊員による避難誘導や救急法の訓練を実施していますが、協力関係である同じ敷地内の施設の参加が得られていません。	災害対策強化として、法人の連携確認並びにホームとしての災害備蓄品（防寒、停電対策の物品、食料品、衛生用品等）の用意や確認への取り組みに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気や職員としての垣根を持たないようにとの考え方の延長で時折行き過ぎた対応になる職員もいる	入浴支援時はシフトの関係で同性介助が困難な場合もありますが、利用者の納得が得られてからの支援としています。利用者への接遇が慣れによる支援になっていないかを課題としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力や表現力の変容を職員間で確認しながら意向や希望をくみ取るようにしているが、職員の都合に合わせてようとする事もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんの様子を確認しながら日課表に縛られることなく柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感や個人差を考慮しながら配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々人により出来ることや好きなことを行ってもらっている	利用者の好みを把握した献立を作成し、業者に食材を注文しています。苦手な食材ならば代替品を用意しています。食器をワンプレートにしたり、行事食や外食、時には食事場所を中庭に移し、家族と一緒に食事会を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は記録により確認している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後ではなく、起床時と就寝時にケアしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁パンツ、紙パンツ、パットの使用を入居者さんの状態を見ながら、自尊心と羞恥心に配慮して使用している	殆どの利用者は自分でトイレに行っています。失敗があっても、自分の意思でトイレに行くことを尊重し、職員は見守りに徹しています。衛生用品の使用は、職員間で検討してから決定しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認と、医師と相談しながら本人に合った便秘薬の服用を考えている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回（火木土）の決められた入浴日の中の時間内で本人の希望に沿うように対応している	週3回を目途に、午前と午後に入浴支援をしています。無理強いせず、利用者の体調や意向に沿い柔軟に対応しています。全ての利用者が浴槽に入り、職員との会話を楽しむ時間帯になっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康状態や生活習慣を考慮して配慮している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員を中心に薬剤の変更や追加などがあった場合にはその都度確認している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や能力に応じて役割を設定している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	原則的には希望に沿うようにしているが、天候・健康状態・職員数などにより直ぐには対応できていないことも多い	ホーム周辺の散歩を兼ねて畑の野菜や花の成長を眺めたりしています。また、通院や理美容室への同行支援、ホームの買い物には利用者を誘うなど、外気に触れる機会を作っています。ホーム所有の車でドライブを兼ねて外食を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	歩いていける距離にお店がないこともあり、お金を自己管理している入居者さんはいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に規制はしておらず、希望があったときには速やかに対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんの個性や相性に配慮して空間を設定し、安心して過ごせるように設定している	全てが広くゆったりとした造作になっており、採光や空調にも配慮があります。居間や廊下には、退職した職員の作品である十二支の絵や利用者や職員の作品、退所した利用者の草履の作品、行事の写真等を展示しています。クリスマスツリーが華やかな気分を盛り上げているようです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にひとりになれるようなスペースはない		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面に配慮しながら家族の協力を得て居住空間を設定している	入口扉の下の部分を色分けし、自分の部屋として認識できるようにしています。洗面台、ストーブ、電動ベッド、丸テーブル及び収納戸棚などが設置されています。また、居室には馴染みの物が持ち込まれ、落ち着いた雰囲気になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に応じて居室の位置や食事の位置を検討している		